

行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	廃棄物処理・リサイクル事業連携促進3R高度化事業	事業開始年度	平成20年度	作成責任者						
担当部局庁	大臣官房廃棄物・リサイクル対策部	担当課室	リサイクル推進室	室長 上田 康治						
会計区分	一般会計	上位政策	廃棄物・リサイクル対策の推進							
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	—							
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	<p>【容器包装リサイクル分】自治体、住民、再商品化事業者などの地域連携により、リサイクルの過程を透明化し、住民理解のもと、より質の高いリサイクルの構築を図るモデル的な取組について、その環境負荷低減効果等の分析を行い、リサイクルの質的向上の可能性を検討するもの。また、プラスチック製容器包装の再商品化により発生する残さの有効利用に向けた実証実験を行い、残さ利用方策のルール化に向けた課題を整理するもの。</p> <p>【自動車リサイクル分】自動車破砕残さ(ASR)の発生量低減などに寄与する自動車構成部材のリサイクルの可能性等を検討することにより、使用済自動車の再資源化の高度化を図る。</p>									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>【容器包装リサイクル分】廃棄物処理業者と排出事業者等の関係者が連携して行うリサイクルの高度化のための地域連携効果の検証や消費者のリサイクル製品に対する意識の調査、または、ある処理業者からの残渣を利用した別の処理業者でのリサイクル等処理業者同士の横連携によるリサイクルの効率化・高度化に係る事業のうち、先進的であり、一定の仮説を実証すれば事業化が可能であると考えられるものについて、環境省モデル事業として、協議会等での検討、処理プロセスでの高度3R化・低炭素化につながる製品設計のための研究開発、事業実施の効果測定等の検討を行うもの。</p> <p>【自動車リサイクル分】使用済自動車の再資源化に向けた高度化検討調査として、ASRの組成変化に関する調査手法の検討、レアメタルを含む自動車構成部材のリサイクル動向の把握及び使用済自動車に含まれる新たな素材リサイクルの可能性検討調査を行う。また、ASR再資源化状況調査として、再資源化施設において回収される再生資源について需要動向等を把握する。</p>									
実施状況	<p>【容器包装リサイクル分】○平成20年度は、容器包装廃棄物のリサイクル製品化に関する実態及びリサイクル製品に対する意識の調査を行った。○平成21年度はプラスチック製容器包装の再商品化手法のうち、材料リサイクルの容器包装廃棄物の残渣の有効利用として、燃料として利用される熱回収、油化等のケミカルリサイクルについてジョイント利用の実証実験調査を行い、残渣の利用方策のルール化に向けた課題を整理した。また、国が選定した8地域において地域連携モデル事業を行った。</p> <p>【自動車リサイクル分】ASRの組成変化に関する調査手法を検討するとともに、レアメタルを含む自動車構成素材のリサイクル動向の把握、新たな素材リサイクルの可能性検討のため、文献調査、関係者等へのヒアリング、アンケート調査、現地調査を実施した。</p> <p>また、「使用済自動車再資源化の効率化及び合理化推進検討会」を計2回開催し、調査結果を報告するとともに、調査・検討結果の取りまとめを行った。</p>									
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求				
	予算額(補正後)	11	22	38	67	251				
	執行額	10	31	47						
	執行率	91%	141%	124%						
	総事業費(執行ベース)	10	31	47						
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	<p>【容器包装リサイクル分】事業実施等の状況把握については、事業者との間で、電話や電子メール等で連絡するとともに定期的に当省担当者との打合せ会議を行い、常に事業の進捗状況や達成状況を確認している。</p> <p>【自動車リサイクル分】受託者からの随時の報告による業務の進行状況を管理することにより、委託金額の適正な執行を確認するとともに、進捗状況に応じて契約変更を行う等、委託金額の適正な執行を確保した。</p>								
	見直しの余地	<p>【容器包装リサイクル分】本事業については、これまでの事業で得られた結果と、22年度に行う事業で一定の成果が得られる予定であることから、22年度限りの事業とする予定である。</p> <p>【自動車リサイクル分】今後の事業の進め方については、これまで得られた成果を最大限活用することで、次のステップである新たなリサイクル手法の検討において、効率的・効果的な事業の実施に努めていく。</p>								
化予 子算 一監 ム視 の・ 所効 見率	<p>抜本的改善</p> <p>(シート番号103番「廃棄物処理・リサイクル事業連携促進3R高度化事業」、シート番号105番「使用済電気電子機器の有害物質適正処理及びレアメタルリサイクル推進事業費」、シート番号106番「使用済製品等の総合的なリユース促進事業費」を整理統合し、効率的な事業実施に努めるべき。)</p>									
補記	○予算繰越(当該年度の前年度からの繰越額)									
	<p>単位:百万円</p> <table border="1"> <tr> <td>平成19年度</td> <td>平成20年度</td> <td>平成21年度</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>					平成19年度	平成20年度	平成21年度	0	0
平成19年度	平成20年度	平成21年度								
0	0	0								

環境省
47百万円

事業の委託元であり、プラスチック製容器包装リサイクル高度化推進調査及び使用済自動車の効率化及び合理化等推進調査業務の全体統括を行う。

【総合評価入札・請負】

A(社)環境情報科学センター
38百万円(平成21年度)(*)

容器包装の再商品化手法の実証事業及び地域連携モデル事業の受託者

【事業概要】

容器包装プラスチックの再商品化手法の実証実験、分別収集に係る住民の意識調査等を実施する。また、得られた効果等について報告書に取りまとめ、環境省に報告する。

(*)プラスチック製容器包装の適正な分別排出に係る実態調査業務と一括して請負

【一般競争入札】

B(財)日本環境衛生センター
9百万円

使用済自動車再資源化の効率化及び合理化等推進調査業務の受託者

【事業概要】

使用済自動車の再資源化の高度化に関する事項について、検討、調査等を行う。また、得られた成果について報告書に取りまとめ、環境省に報告する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A.(社)環境情報科学センター			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	プラスチック製容器包装リサイクル高度化推進調査事業費	38			
計		38	計		0
B.財団法人日本環境衛生センター			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	再資源化効率化・合理化推進調査費	9			
計		9	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0